

アキ工作社「国東時間（くにさきじかん）」を正式導入

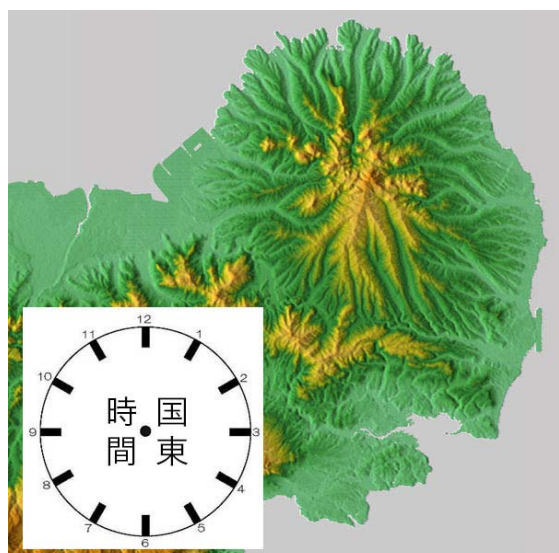
～ 週休3日制の、新しい働きかたを始めます ～

段ボールクラフト **d-torso**（ディー・トルソー）の製造・販売を行う、株式会社アキ工作社（大分県国東市、代表取締役社長 松岡勇樹、以下「アキ工作社」）は、7月1日より「国東時間（くにさきじかん）」を正式導入し、週休三日制の新しい働き方をはじめます。

アキ工作社は4年前から国東市の中山間部にある、今は廃校になった小学校（旧西武蔵小学校）を拠点にして、国東半島の豊かな自然に囲まれながら**モノづくり**を行い、国内外の市場へ製品を出荷しています。 私たちはこのたび、よりクリエイティブで、効率のいい仕事、そしてより精度の高い製品づくりをめざし、週休三日制の導入を行います。お休みの日には釣りをしたり、山歩きをしたり、読書をしたりと、国東（くにさき）の固有の時間を取り込んでくれればいい。それが個人のスキルアップにつながり、その結果、会社の事業効率をあげることになる、という考え方です。すでに6月から試験導入を行っていますが、社員の仕事に対する意欲や責任感が強まるとともに実質的な出来高も上がり、予想以上の成果を上げています。都会の時間にあわせるのではなく、自分達がすむ国東の固有の時間のなかで、それを取り込みながらオリジナルな仕事をしていく、そういう意味で私たちはこれを「国東時間（くにさきじかん）」と名付けました。

※なお、本件に関する詳細は別紙をご覧ください

株式会社アキ工作社 代表取締役 松岡勇樹



【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社アキ工作社

〒873-0355 大分県国東市安岐町富清 3209 番地 2

TEL 0978-64-3002 FAX 0978-64-3003

Mobile 090-6421-3712

担当： 松岡勇樹（まつおかゆうき）

「国東時間（くにさきじかん）」について

Blog. マツオカユウキ、より



田舎に暮らす、田舎で仕事を創る。アキ工作社のテーマはずっとそこにある。

1995 年にはじめての d-torso プロトタイプをつくって以来、僕としては世間に流されるままにここまで来たという感がとても強い。だが **d-torso** というプロダクトを介してこれまでに繋がってきた人のネットワークが、会社にとっても僕自身にとっても、ほんとうの意味の資産になっている。現在の社員はもとより、d-torso に関連する社外のネットワーク、行政、金融、協力会社、大学、国内外の流通、販売店、メディア、個人顧客が d-torso という一つのプロダクトを介して繋がったわけだ。これらのグループは、もちろん個人の集合だが、d-torso と繋がるのは個人という単位ではなく、ほんとうは個人を構成するいく層ものレイヤーのなかのひとつだ。つまりそれぞれの人のなかに d-torso に共振するレイヤーがあり、これがビジネスにつながるときは、また別の要因、別のレイヤーに接続するということだ。僕はこの事業のはじまりから、そのことを大事にしてきた。グループの属性の利害、目的とタイミングが一致すればビジネスとして動き出す。ビジネスだけではなくていろんな方向に動く。アキ工作社が現在、国東の廃校舎を拠点として活動することになったのもそんなリアクションのひとつだろう。

d-torso が接続するレイヤーが、つまりは僕たちの仕事の空間ということになる。国東もニューヨークもパリも東京も、そういう意味ではひとつつながりの空間だ。いっぽうで僕自身ずっと違和感を感じてきたことがある。それは市場で流れる時間と創作の現場、国東で流れる時間の“質”の違いである。1 日は 24 時間、1 年は 365 日、これは世界共通なことだが、時間の質、流れかたはその土地固有のものである。同じような対応をしてはだんだんと歪みが生じてくるのだ。僕自身の無意識のなかで感じていたことなのだろうが最近、国東を離れることが続いて、そのことをあらためて強く感じた。・・・そろそろ行動をおこす時期にきているのかもしれない。

そこで僕たちは d-torso の仕事に「**国東時間（くにさきじかん）**」を導入することにした。

簡単に言えば、会社を**週休三日制**にするということだ。会社に出てくるのは週のうち月曜日から木曜日の連続 4 日間、祝日がある週は調整して出勤日 4 日を確保する。製造部の機械稼働時間はこれまでと同じ、繁忙期はシフト制にして 7 日間をフルで対応する。休みの日は山歩きをしたり、釣りに行ったり、読書をしたりすればいい。とにかく国東の（土地固有の）時間を社員の個々が取り込んでくれればいい。それが個人のスキルアップにつながり事業の効率をあげることになる、という考え方だ。

6 月に導入実験を行い、すでに 4 週が経過しているが、クリエイティブは以前よりも効率が上がり、出来高自体が増えている。一人ひとりの仕事に対する責任の持ちかたに緊張感が生まれ、無駄な仕事がなくなった。会議の時間も短縮され、コミュニケーションもシンプルになった。月曜日の朝、朝礼でその週の計画を確認し、木曜日の夕方終礼で計画どおりにできたかを再確認する。やるべきことは以前と変わらない、むしろこれから多くなっていくだろう。



この国東時間を一年を通して実施し、修正、改良しながら運用を行う計画である。もちろん職員の給料はそのままだ。目的は**労働日**を短縮することによって、事業の効率化をはかり、収益を上げ、それを職員に還元し、最終的には個人所得を増やすことにこそあるからだ。

僕たちの、この働きかたはあくまでも仕事の効率化、収益の向上を目指したものであるが、定着すれば、若い有能な人材を集めることにも繋がるだろう。現代の若い人たちにとっては、拘束されない時間こそがお金よりも大事だからだ。世間的にはなかなか理解されにくいことでもあるけれど、若い世代は常に本質的な問題を提起する。「時はカネなり／Time is money.」と僕たちの世代はいわれたけれど、おそらくそれは間違いだった。すべての生きているものにとって、どの瞬間を切り取っても常にベクトルは「死」に向かっているのだから、「時間」は「生命（いのち）」そのものであるはずだ。その生命のなかから生きるための「仕事」が生まれ、すべての営為がうまれるのだ。

僕たちはずいぶん長い間、「借りものの時間」を過ごしてきたような気がする。場所にはその場所の固有の時間が流れている、考えてみれば自明のことなのに、いつのまにか他所の時間に合わせて生活するようになっていた。この廃校を利用するようになって4年、国東の環境が僕たちに教えてくれたものはとても大きい。

国東時間を前提にして、ビジネスを組み立てていく。不可能ではないはずだ。まずはこの1年で会社としての実績をあげることだろう。そうして、これをモデル化できれば他の国東の事業者にも勧めていきたい。・・・もちろん、それぞれの業態によって困難はあるだろうが。

でも、想像してみて欲しい。30年後、現在の人口が3分の2になるといわれている、この国東市。国東時間の会社が増えれば、ここで暮らしてみたいと思う人が増えるのではないだろうか。会社勤めしている人たちの中には兼業で田畑を作っている人たちも多い、休日には田畑を耕して副収入を得ることもできる。子供がいる家族にとっては育児の分担もできるし、子育ては多少なりともしやすくなるだろう。とくに少子化が進行するこの地域にとっては歯止めになるかもしれない。あるいは会社とも家族ともはなれて、一日自分だけの時間に使ってもいいだろう。休日が増えれば街に出る機会が増える、出会いも増える、お金も使う、すべてが好転しそうな気がしてならないのだ。

マルクス曰く、「**自由の王国の根本条件は労働日の短縮だ**」そうである。はたして**自由の王国**への第一歩になるか。アキ工作社の挑戦はまだはじまったばかりだ。

Blog. マツオカユウキ より

<http://blog.d-torso.jp/matsuoka/2013/06/post-2ff4.html>

株式会社アキ工作社 代表取締役 松岡勇樹

《別紙資料 2》会社概要

【d-torso（ディー・トルソー）とは】

d-torso（ディー・トルソー）は、アキ工作社が開発した立体造形システムです。立体イメージを CT スキャンのように輪切りにしていき、その断面をもとに一つひとつの部品を設計し、それらをふたたび再構築する d-torso の設計手法は、人型（マネキン）からはじまって、動物型や機械などの人工物にも広く応用してきました。d-torso はいわゆる「表面」を持ちません。表面にあたる部分はレーザーで切り出され内部構造が露出した段ボールシートの断面が非連続的に連なります。鑑賞者はそれらの部品と部品の間をイメージで補完し、ひとつの像（フォルム）として認識します。この架空のフォルムはそれを支持する建築的な構造によって成り立っており、フォルムと構造のバランスが d-torso の最も大きな特徴です。

アキ工作社が 1998 年にはじめて発表した「段ボール製組立て式マネキン」が、d-torso（ディー・トルソー）の始まりです。それに遡ること 2 年半前（1995 年）、当時建築設計の仕事をしていた代表の松岡がニットデザイナーである妻のはじめての個展のため、d-torso のプロトタイプを考案、製作したのがきっかけでした。以来、同造形システムを発展させながら、国内外のディスプレイ・インテリア・雑貨・特殊パッケージ・ロボットなど、様々な分野で立体商品を制作しています。現在アキ工作社は大大分県国東半島の山間にある廃校になった小学校をリユースして事業の拠点としています。ここは少子高齢化がすすむ代表的な日本の中山間部落です。アキ工作社はこの場所で「モノづくり」を通して世界と繋がりながら、その土地固有の時間の中で、仕事を創り、豊かに暮らす「新しい生活」の提案をしていきたいと考えています。

製品概要：<http://www.d-torso.jp/about.html> **Facebook：**<http://www.facebook.com/dtorso.jp>

【アキ工作社について】

ダンボールクラフト d-torso（ディー・トルソー）の企画制作・製造・販売を行う。1998 年 7 月創業。代表取締役社長：松岡勇樹（まつおかゆうき）。資本金：3200 万円。従業員数：13 人。現在、少子化の為に閉校になった大大分県下の山間の小学校舎をリユースして d-torso 事業の拠点としている。第二回大大分県ビジネスプラングランプリ最優秀賞。経済産業省「元気なモノツクリ中小企業 300 社」選出。第四回「ものづくり日本大賞」優秀賞受賞。会社概要：<http://www.wtv.co.jp/company/>

【デザイナー：松岡勇樹について】

松岡勇樹（まつおかゆうき）、1962 年大大分県国東市生まれ。武蔵野美術大学建築学科修士課程修了後、建築構造設計事務所勤務を経て、独立。1995 年ニットデザイナーである妻の個展の為に d-torso のプロトタイプとなる段ボール製マネキンを制作。1998 年、生まれ故郷である国東市安岐町にアキ工作社を創業、代表取締役社長。2001 年「段ボール製組立て式マネキン」でグッドデザイン賞受賞。2004 年第二回大大分県ビジネスプラングランプリで最優秀賞受賞（賞金 1500 万円）、本賞金をもとに設備を拡充、雇用を拡大し、現在の事業形態となる。2009 年から、廃校になった旧西武蔵小学校を国東市から借り受け、事業の拠点としている。日本文理大学建築学科客員教授。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社アキ工作社

〒873-0355 大大分県国東市安岐町富清 3209 番地 2

TEL 0978-64-3002 FAX 0978-64-3003

Mobile 090-6421-3712

担当： 代表取締役社長 松岡勇樹（まつおかゆうき）